



2019年3月期第3四半期 決算説明資料

マックス株式会社
2019年1月30日

目次

全社実績

- 1.2019年3月期第3四半期 全社実績
- 2.2015～2019年3月期第3四半期 全社実績推移
- 3.四半期別 全社売上高推移
- 4.営業利益の増減要因
- 5.その他の財務情報
- 6.2019年3月期第3四半期 環境認識

セグメント実績

- 7.2019年3月期第3四半期 セグメント実績
- 8.四半期別 セグメント売上高推移
- 9.インダストリアル機器部門 2019年3月期第3四半期実績
- 10.インダストリアル機器部門 四半期別売上高推移
- 11.オフィス機器部門 2019年3月期第3四半期実績
- 12.オフィス機器部門 四半期別売上高推移
- 13.HCR機器部門 2019年3月期第3四半期実績
- 14.HCR機器部門 四半期別売上高推移
- 15.四半期別 海外売上高推移
- 16.トピックス:鉄筋結束機「TWINTIER」市場PR活動

通期見通し

- 17.2019年3月期 第4四半期 環境認識
- 18.2019年3月期 全社計画
- 19.2019年3月期 セグメント計画
- 20.配当政策 配当性向と純資産配当率
- 21.配当政策 1株当たり配当金



2019年3月期 第3四半期 全社実績

■為替レート

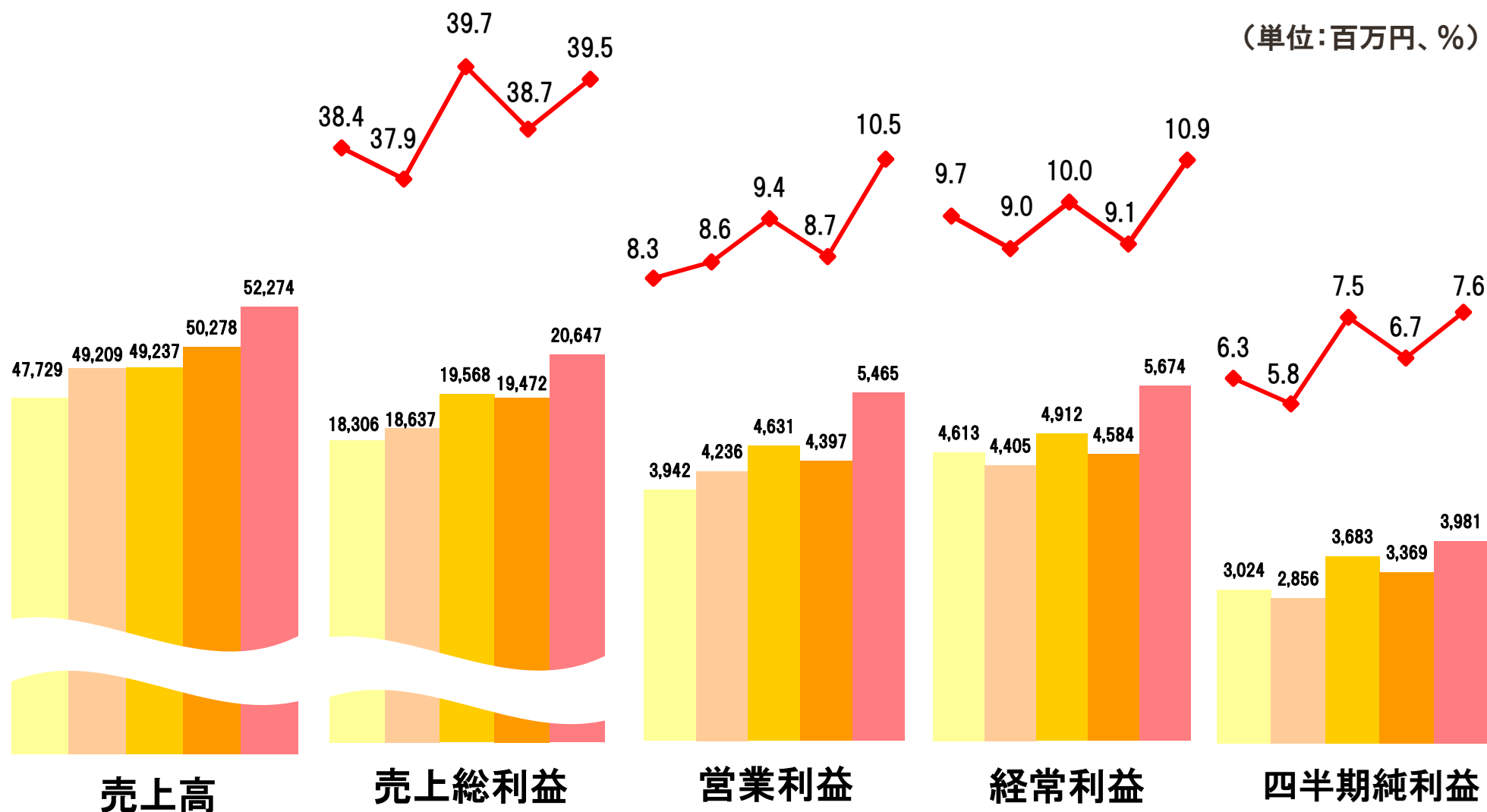
	2019年3月期 3Q	2018年3月期 3Q	2019年3月期 計画
1ドル	110.81円	111.69円	109.75円
1ユーロ	129.64円	127.85円	129.75円

(単位:百万円、%)

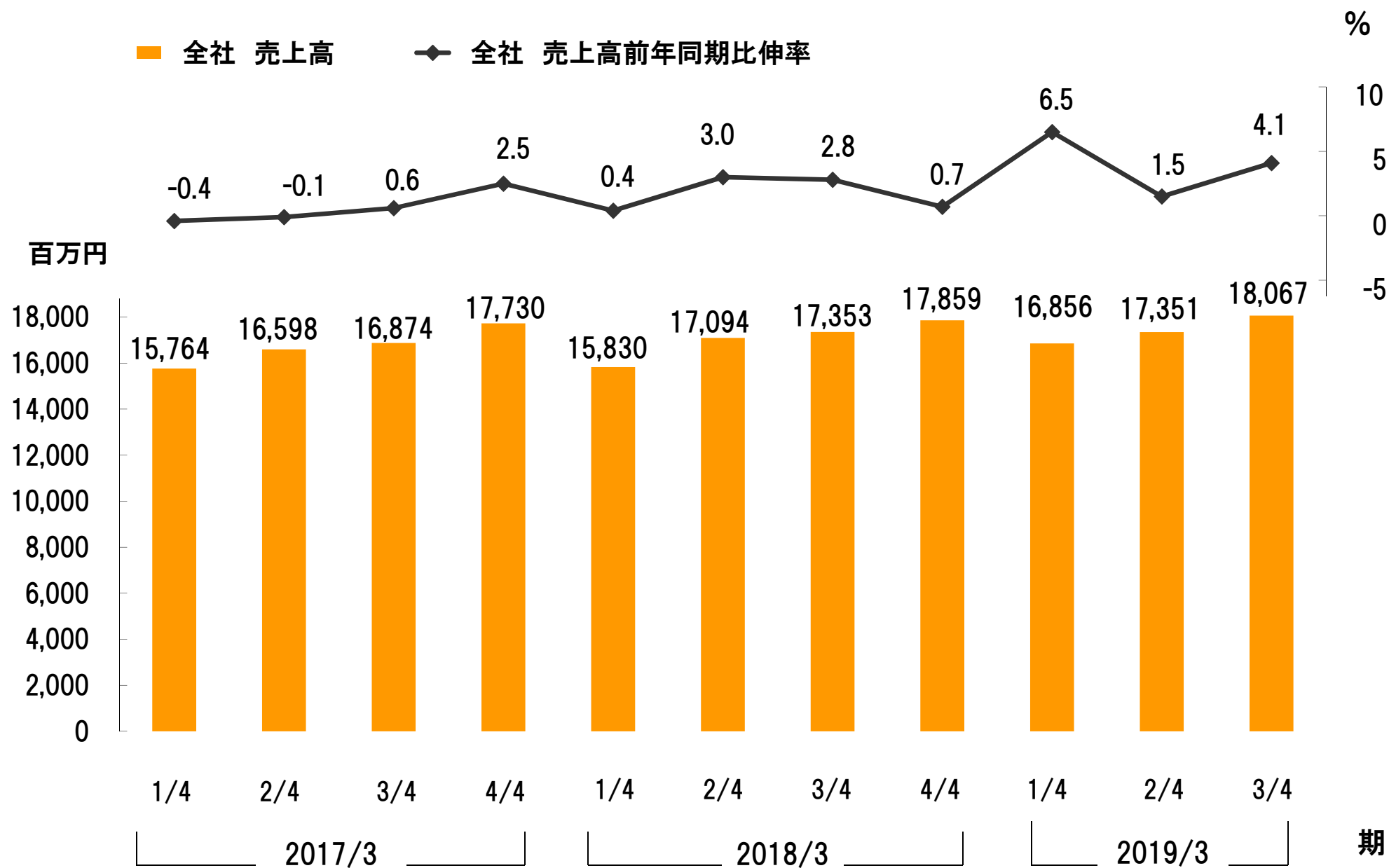
	当期実績	対前期		対計画	
		前期実績	増減率	通期計画	進捗率
売上高	52,274	50,278	4.0	70,400	74.3
売上総利益 同率	20,647 39.5	19,472 38.7	6.0	—	—
営業利益 同率	5,465 10.5	4,397 8.7	24.3	6,650 9.4	82.2
経常利益 同率	5,674 10.9	4,584 9.1	23.8	6,900 9.8	82.2
親会社株主に帰属する四半期純利益 同率	3,981 7.6	3,369 6.7	18.2	4,800 6.8	83.0
1株当たり四半期純利益 (円)	80.82	68.40	—	97.43	—

■ 2015年3月期3Q ■ 2016年3月期3Q ■ 2017年3月期3Q
■ 2018年3月期3Q ■ 2019年3月期3Q — 同率

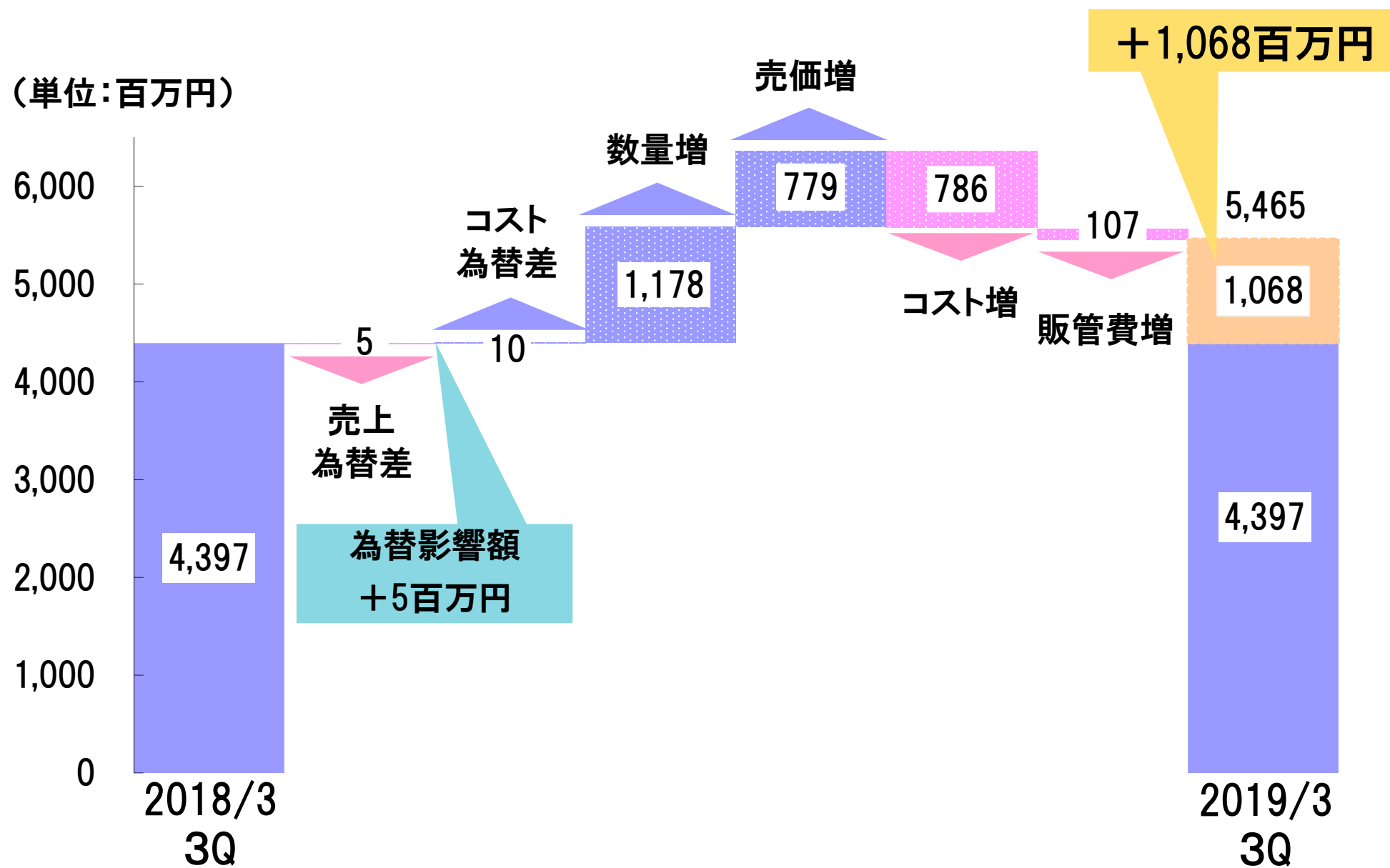
(単位: 百万円、%)



3 四半期別 全社売上高推移



4 営業利益の増減要因



■営業外収支と特別損益の実績

(単位:百万円)

	2019年3月期3Q	2018年3月期3Q	前年差
営業外収支	208	187	+21
営業外収益(為替除き)	303	304	△0
営業外費用(為替除き)	△66	△58	△7
為替差額	△28	△58	+29
特別損益	△10	11	△21
特別利益	10	32	△22
特別損失	△20	△20	+0

■設備投資、減価償却費、研究開発費の実績

(単位:百万円、%)

	2019年3月期3Q	2018年3月期3Q	2019年3月期 年間計画	進捗率
設備投資	2,320	2,017	3,403	68.2
減価償却費	1,613	1,617	2,279	70.8
研究開発費	2,176	2,148	2,910	74.8

国内	新設住宅着工戸数・・・2018年1月～9月は前年比△3.3% (持家着工 △1.9%、賃貸 △4.8%、分譲住宅 △3.2%) →機工品事業、住環境機器事業にマイナス影響 非居住建築物の着工床面積・・・2017年10月～2018年6月は前年比＋2.7% (事務所 ＋3.4%、店舗 △3.7%、工場 ＋9.6%、倉庫 ＋8.1%) →機工品事業(コンクリート系)にはプラス影響 建設技能労働者 鉄筋工(建築)は不足状態で推移 →機工品事業(コンクリート系)にはプラス影響
海外	1ドル110.81円、1ユーロ129.64円 (前年:ドル111.69円、ユーロ127.85円 計画:ドル109.75円、ユーロ129.75円) 全社の為替感応度は、外貨での売上と費用の取引ボリュームが同等水準であり、 営業利益での影響は少ない。 世界経済・・・米国経済は個人消費や企業業況の改善による設備投資の増加など景気拡大が継続。 欧州経済についても緩やかな回復基調で推移。 米国の通商政策による「鉄鋼・アルミニウム製品への関税引き上げ」の影響により、 現地法人の鉄製品の輸入価格が上昇。 →インダストリアル機器部門の一部の製品は売価へ価格転嫁を実施。 米国の足元の新設住宅着工は減少している。 10月の年率換算値は121.7万戸、11月の年率換算値は125.6万戸 (前年は10月126.5万戸、11月130.3万戸) →海外機工品事業にマイナス影響 鋼材、石油製品など原材料価格の上昇→マイナス影響



2019年3月期第3四半期 セグメント実績

(単位:百万円、%)

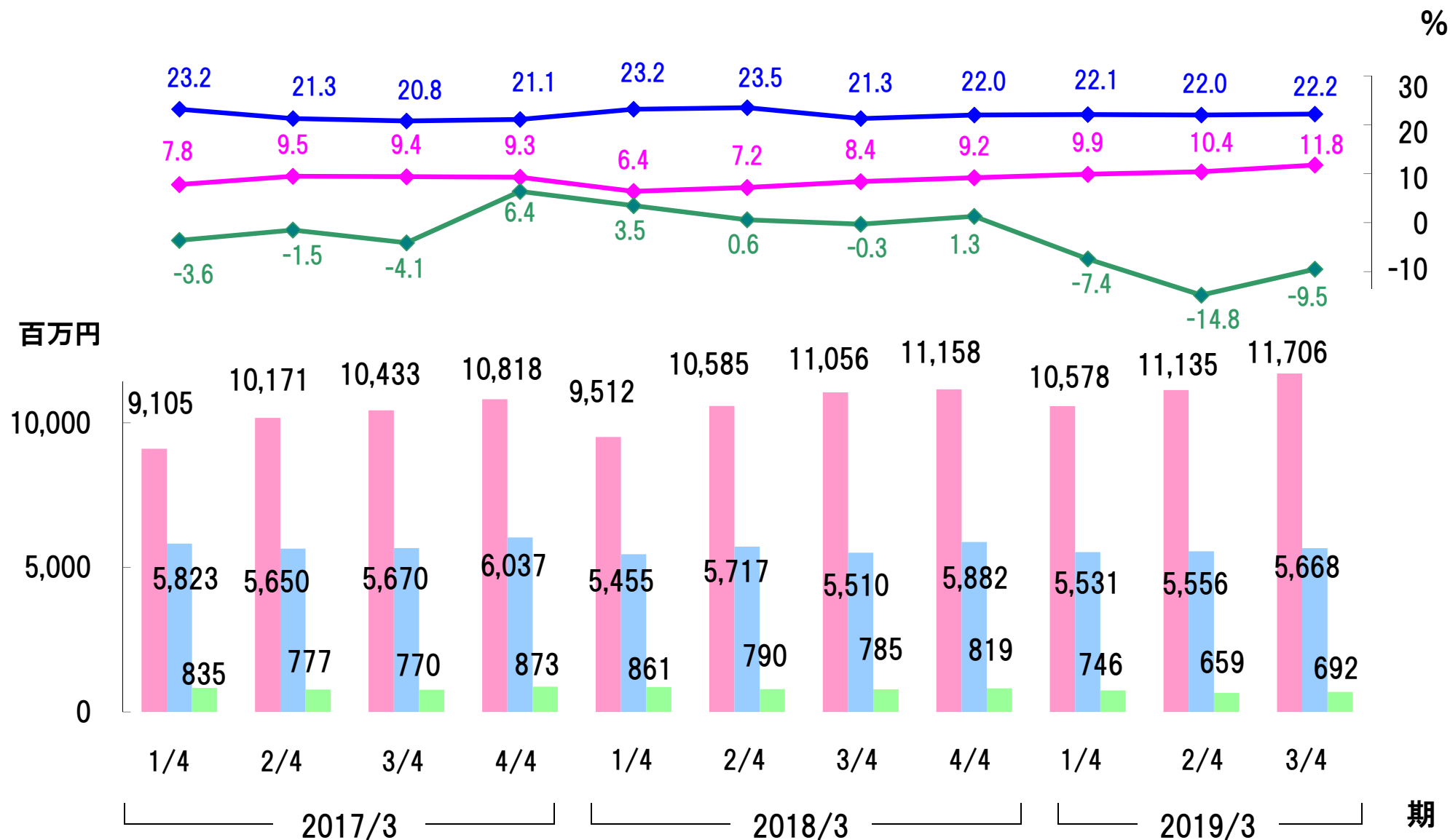
			対前期		対計画	
			前期実績	増減率	通期計画	進捗率
報告セグメント	インダストリアル機器部門					
	売上高	33,419	31,155	+7.3	44,800	74.6
	セグメント利益	3,592	2,300	+56.1	4,350	82.6
	セグメント利益率	10.8	7.4	(+3.4P)	9.7	
	オフィス機器部門					
	売上高	16,756	16,684	+0.4	22,600	74.1
	セグメント利益	3,704	3,779	△2.0	4,700	78.8
	セグメント利益率	22.1	22.7	(△0.6P)	20.8	
	HCR機器部門					
	売上高	2,098	2,438	△14.0	3,000	69.9
	セグメント利益	△219	33	—	△150	—
	セグメント利益率	△10.4	1.4	(△11.8P)	△5.0	
	調整額	△1,612	△1,716	—	△2,250	—
全社計						
売上高	52,274	50,278	+4.0	70,400	74.3	
営業利益	5,465	4,397	+24.3	6,650	82.2	
営業利益率	10.5	8.7	(+1.8P)	9.4		

当期より、各部門に配分しておりました本社管理部門に係る費用について、調整額として計上する方法に変更しております。今回の資料は過去実績及び計画も同様の方法に統一し、記載しております。

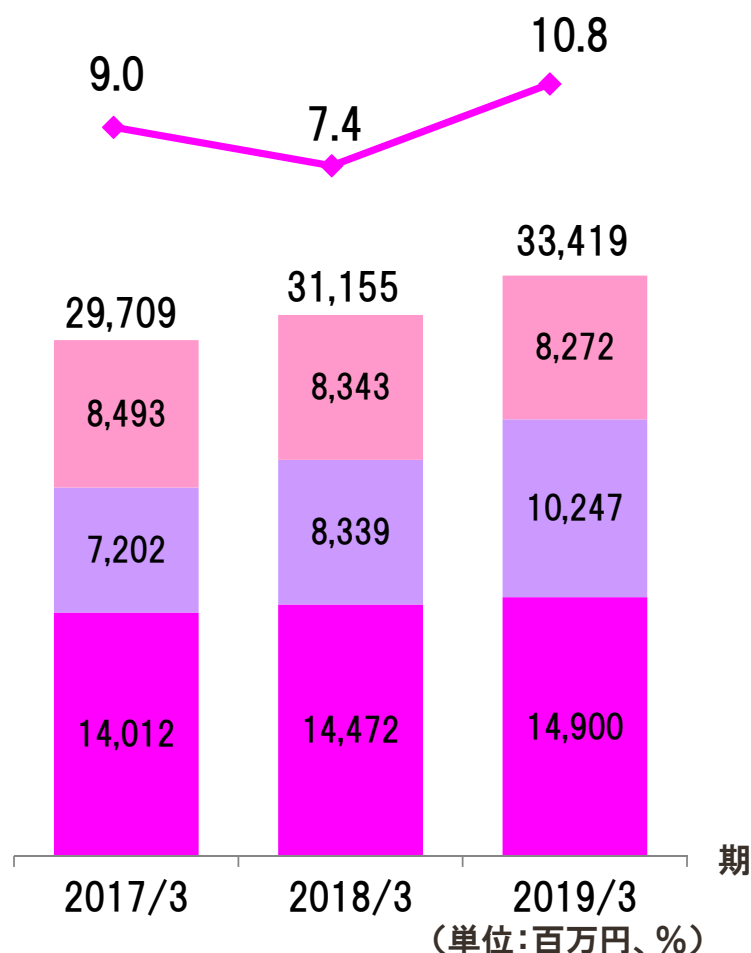
8 四半期別 セグメント売上高推移



■ インダストリアル機器部門 売上高
 ■ オフィス機器部門 売上高
 ■ HCR機器部門 売上高
◆ インダストリアル機器部門 セグメント利益率
 ◆ オフィス機器部門 セグメント利益率
 ◆ HCR機器部門 セグメント利益率



- 国内機工品事業 売上高
- 海外機工品事業 売上高
- 住環境機器事業 売上高
- インダストリアル機器部門 セグメント利益率



売上高 33,419百万円／セグメント利益 3,592百万円
 (前年同期比+7.3% / 前年同期比+56.1%)

国内機工品事業

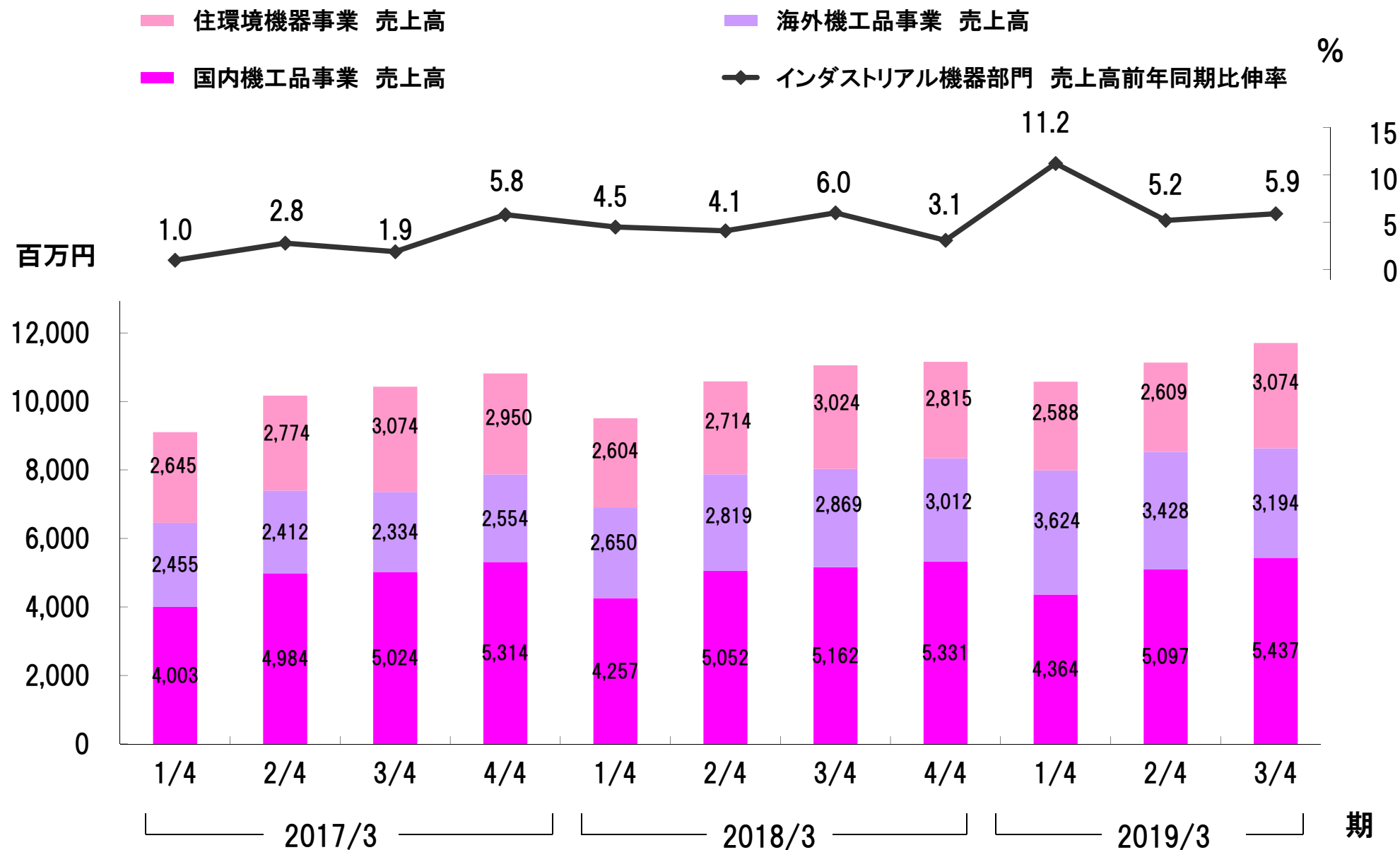
・売上高 14,900百万円 前年同期比+3.0%
 木造建築用工具の販売が減少したものの、前期に発売した鉄筋結束機「ツインタイア」の機能性が評価され、建築現場での用途拡大による導入や生産性を求める建設・土木などの市場開拓が進み、コンクリート構造物向け工具の販売が増加し、増収となりました。

海外機工品事業

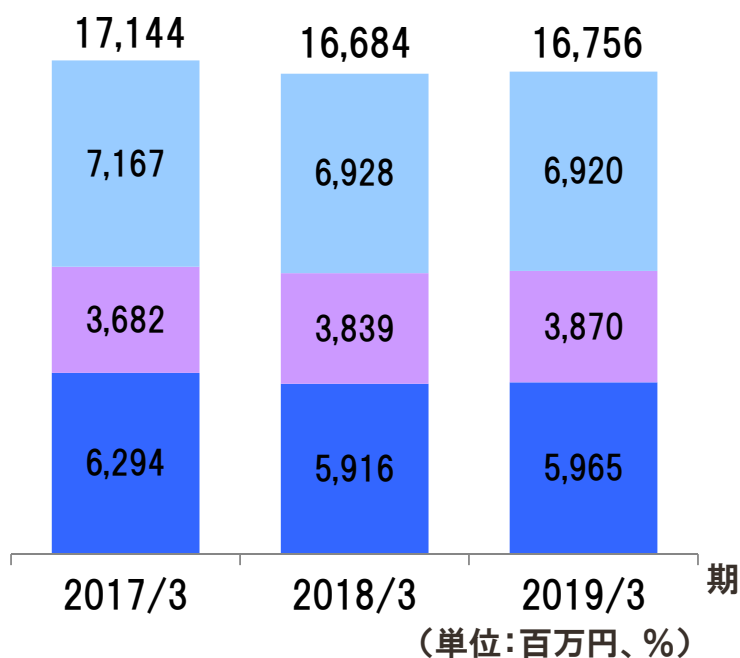
・売上高 10,247百万円 前年同期比+22.9%
 欧米市場で鉄筋結束機「ツインタイア」の販売が既存機種からの置き換えや新規販売網の構築による土木市場や現場建築市場での導入により加速し、増収となりました。

住環境機器事業

・売上高 8,272百万円 前年同期比△0.8%
 主力の浴室暖房換気乾燥機「ドライファン」の販売が戸建て向けやマンション向けで増加したことに加え、リフォーム市場でも導入が進みました。
 一方で、換気システムや火災警報器の販売が減少し、事業全体では微減収となりました。



- 国内オフィス事業 売上高
- 海外オフィス事業 売上高
- オートステープラ事業 売上高
- オフィス機器部門 セグメント利益率



売上高 16,756百万円／セグメント利益 3,704百万円
(前年同期比+0.4% / 前年同期比△2.0%)

国内オフィス事業

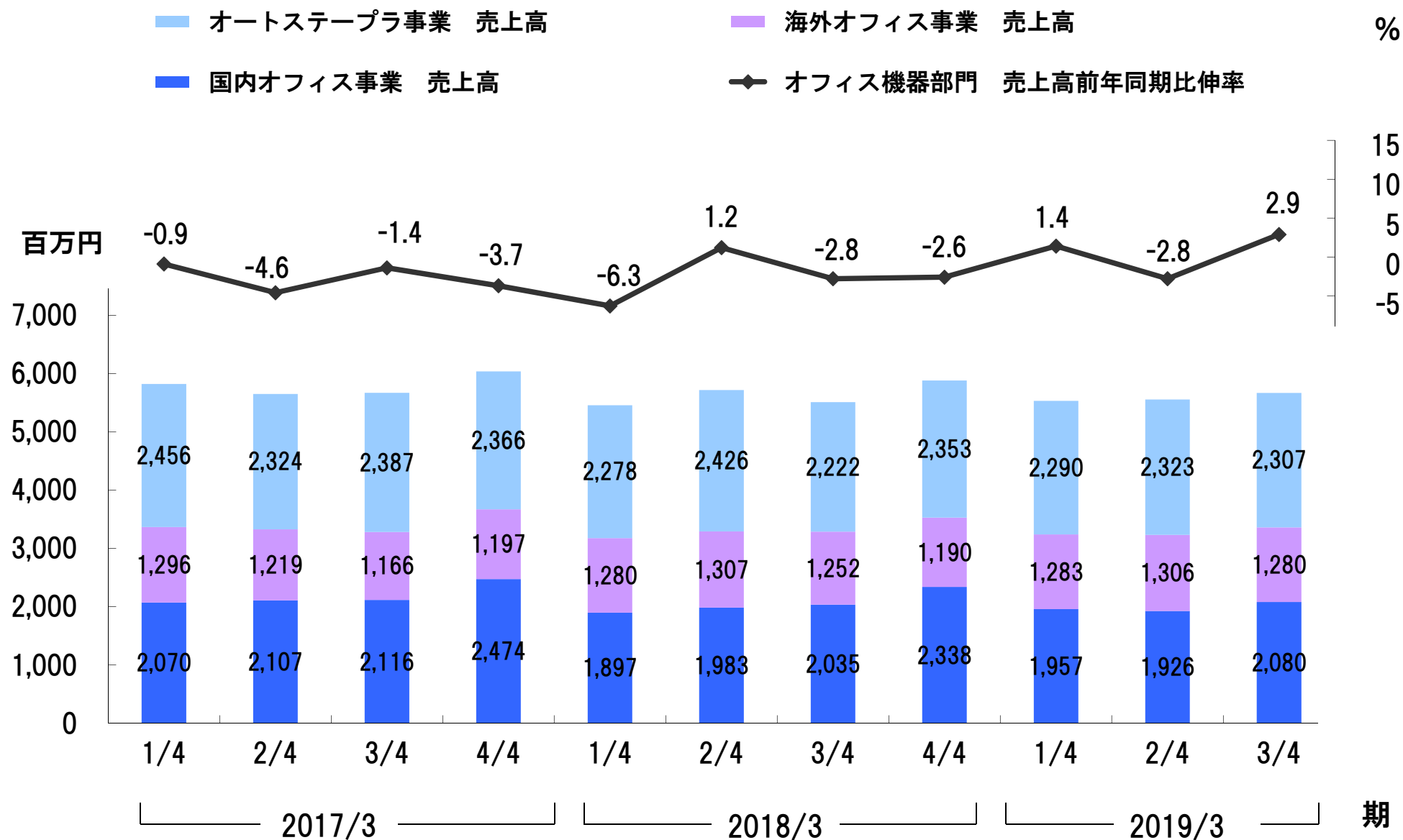
・売上高 5,965百万円 前年同期比+0.8%
文具関連製品の販売は減少したものの、電気設備用チューブマーカー「レタツイン」や食品表示用ラベルプリンタなどの販売は増加し、微増収となりました。

海外オフィス事業

・売上高 3,870百万円 前年同期比+0.8%
チューブマーカー「レタツイン」の販売は減少したものの、表示作成機「Be-pop(ビーポップ)」の販売が英国子会社ライトハウス社の拡販により欧州市場で伸長したことや、文具関連製品の販売がアジア市場で持ち直したことにより、微増収となりました。

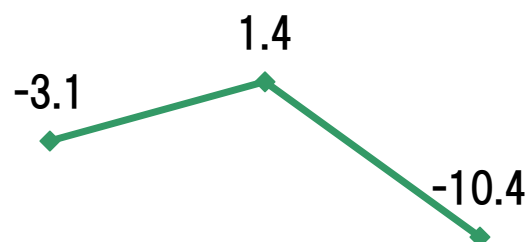
オートステープラ事業

・売上高 6,920百万円 前年同期比△0.1%
前年同水準となりました。



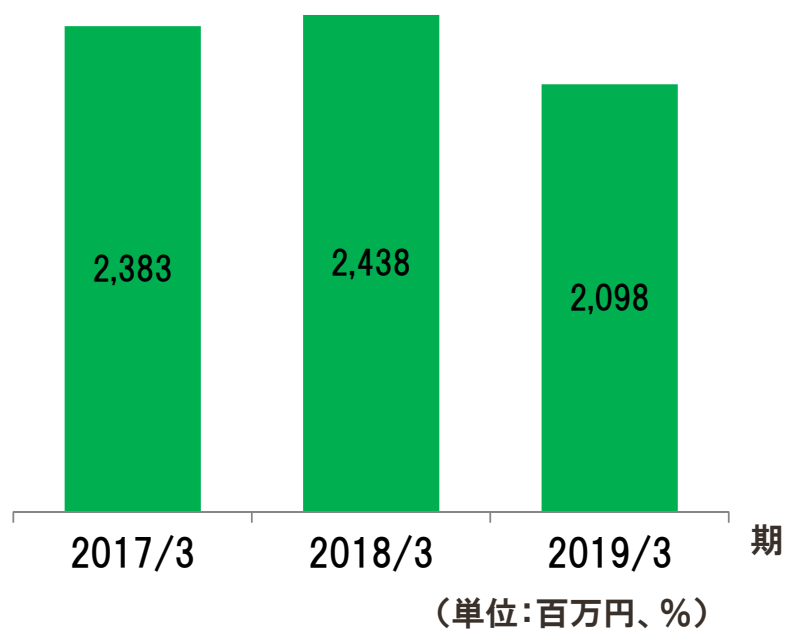
■ HCR機器部門 売上高
— HCR機器部門 セグメント利益率

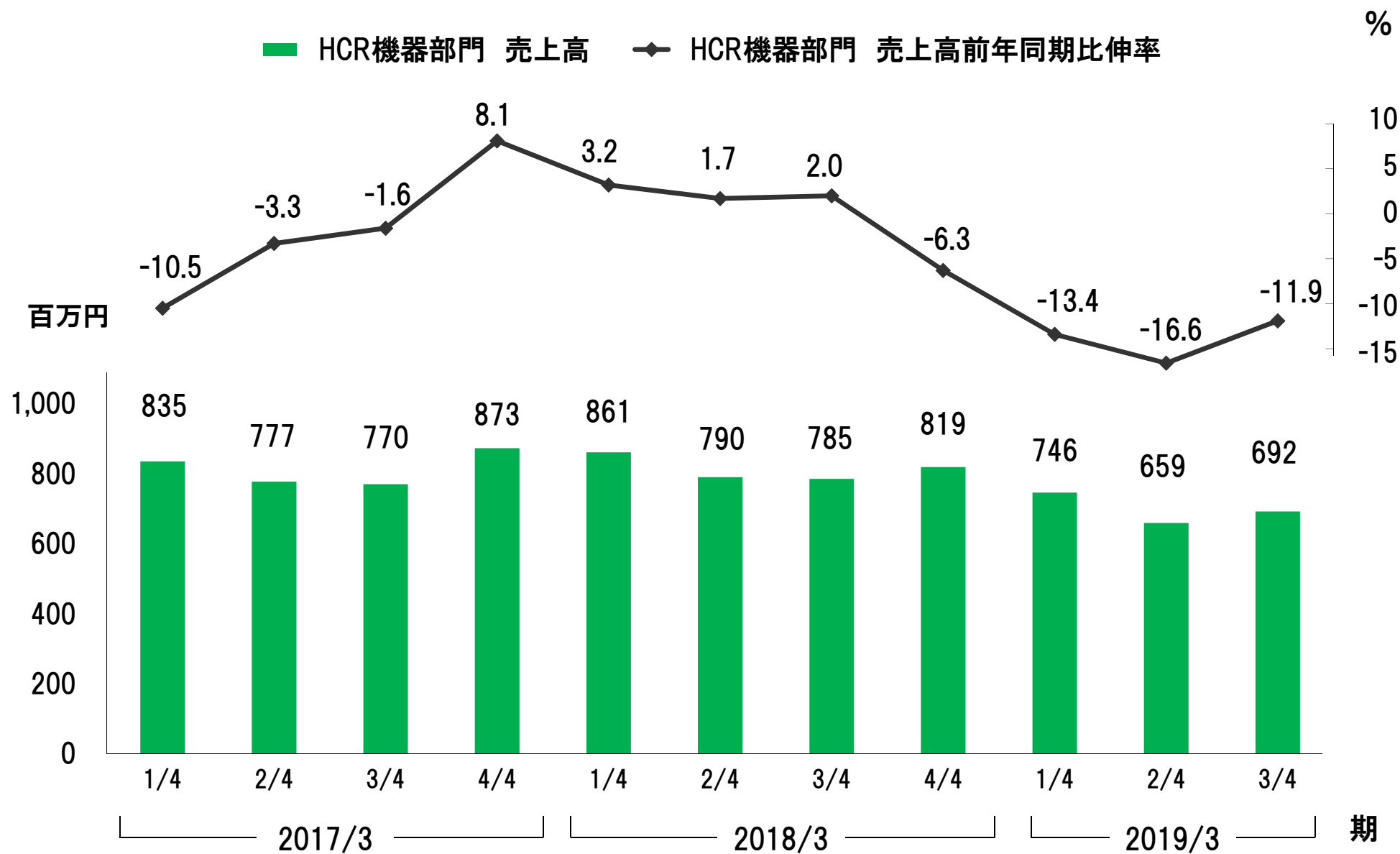
売上高 2,098百万円／セグメント利益 △219百万円
(前年同期比△14.0% / 前年同期比ー)



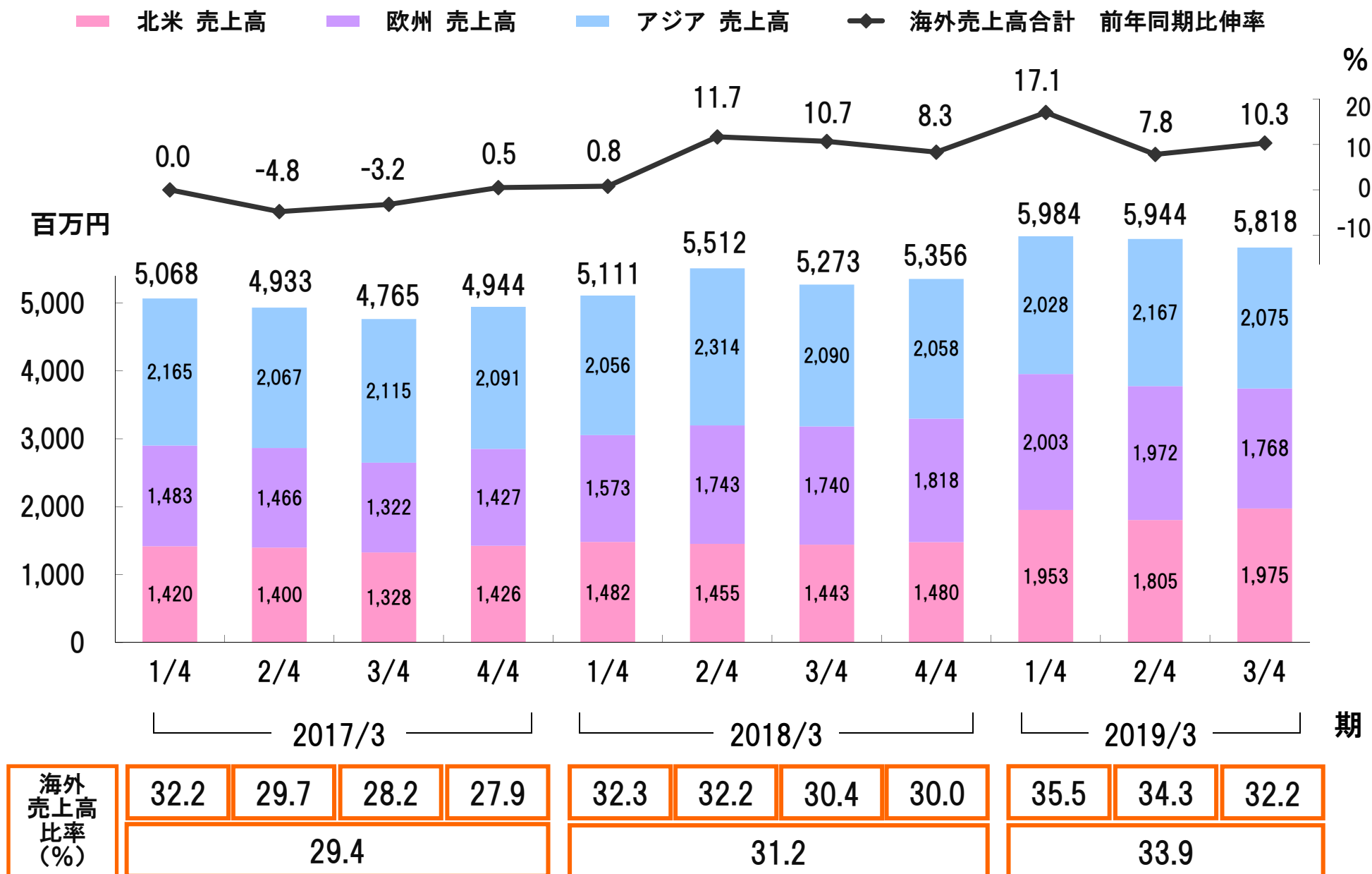
HCR機器部門

介護保険制度の一部見直しの影響や前期売上を牽引していた高単価車いすの販売が減少し、減収となりました。





15 四半期別 海外売上高推移



※オートステープラ事業の海外売上高も含んでおります。

WORLD OF CONCRETEへ出展

【展示会概要】

期間、場所：2019/1/22～25 米国ラスベガス（欧州、アジアでも開催）

出展企業：1,500社（マックス、マキタ、Metabo、BOSCH、HILTIなど）

来場者：58,000人以上

【目的】

海外市場に向けて鉄筋結束機「TWINTIER」の機能性をアピールし、販売網の構築とユーザーへのブランド訴求につなげる。

機工品事業の重点製品である鉄筋結束機「ツインタイア」や高圧・常圧釘打機、高圧コンプレッサ、ガスネイラを展示。



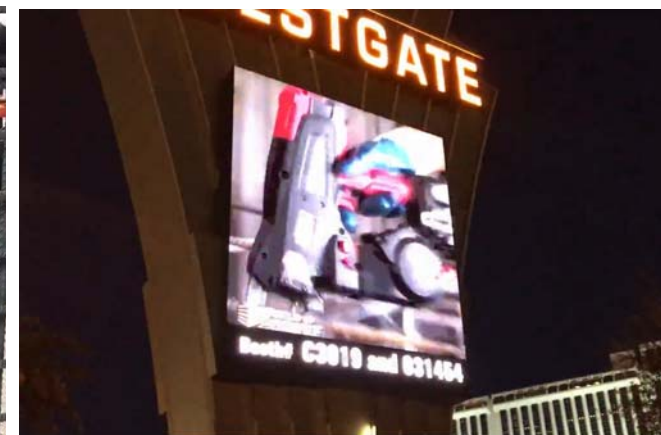
WORLD OF CONCRETE 2019
EXHIBITS: JANUARY 22-25; SEMINARS: 21-25
LAS VEGAS CONVENTION CENTER



屋内展示ブース



REBAR TYING CONTEST



大型サイネージ広告



2019年3月期
通期見通し

国内環境

- ・金融機関の融資厳格化による賃貸住宅の着工減少などにより、新設住宅着工戸数は前年に対し、引き続き減少傾向。
→機工品事業(木造系)、住環境機器事業にマイナス影響
- ・第4四半期に影響を与える非居住建築物の着工床面積は減少傾向。
→機工品事業(コンクリート系)にマイナス影響

海外環境

- ・米国の通商政策による貿易摩擦の激化や世界経済の不確実性の高まりが懸念される。
- ・米国の住宅着工の先行指標となる住宅着工許可件数は減速傾向。
年率換算値は10月126.5万戸(対前年△5.8%)、11月132.8万戸(対前年+0.4%)
→海外機工品事業にマイナス影響

2019年3月期第4四半期 想定為替レートは、米ドル110円、ユーロ130円

■通期想定為替レート

	今回計画	前期実績
1ドル	110.61円	110.83円
1ユーロ	129.73円	129.43円

(単位:百万円、%)

	当期計画 (年間)	対前期	
		前期実績 (年間)	前期比
売上高	70,400	68,138	3.3
営業利益 同率	6,650 9.4	6,139 9.0	8.3 (+0.4P)
経常利益 同率	6,900 9.8	6,076 8.9	13.5 (+0.9P)
親会社株主に帰属する当期純利益 同率	4,800 6.8	4,654 6.8	3.1 (0.0P)
1株当たり純利益(円)	97.43	94.46	—

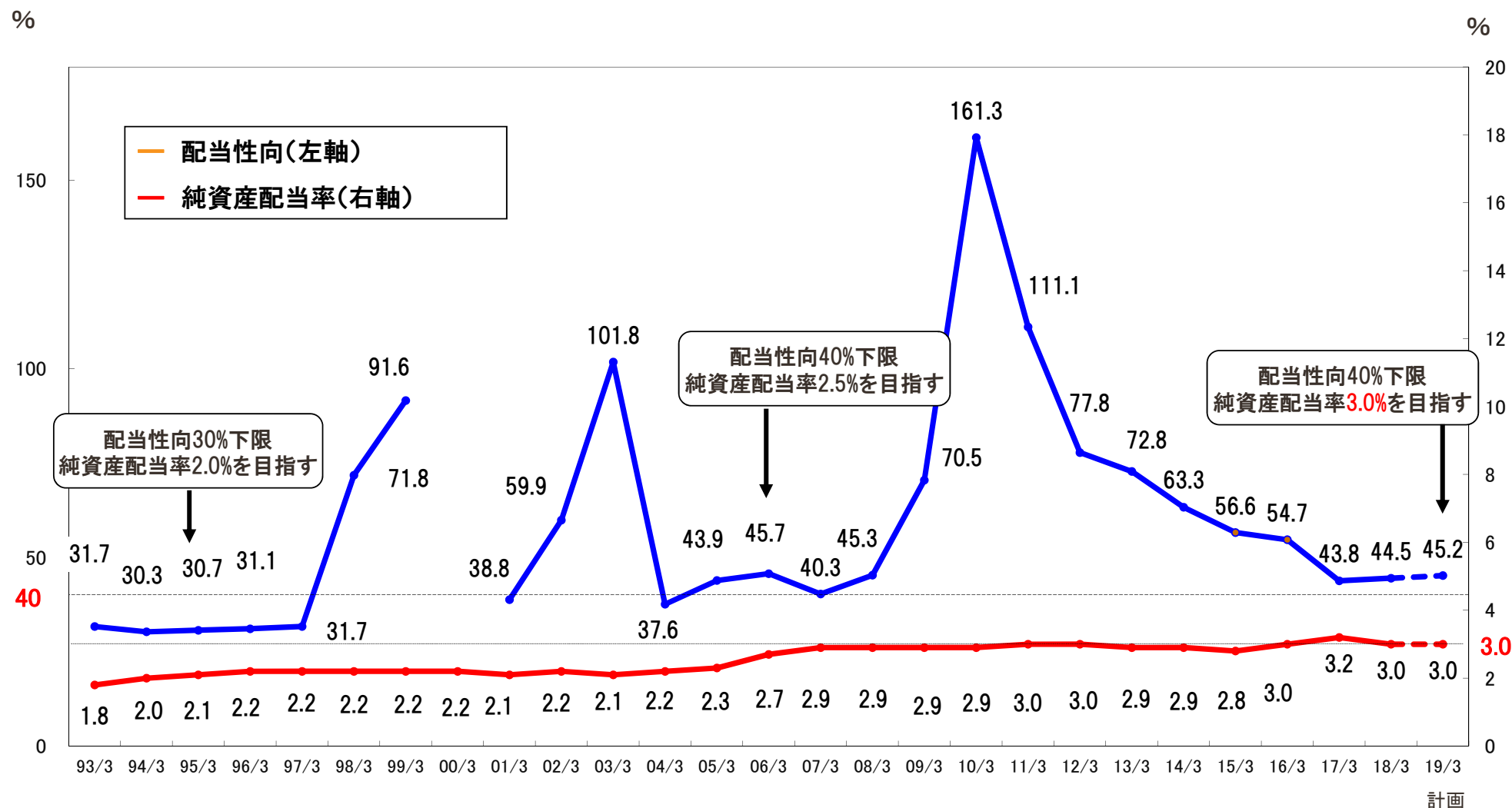
(単位:百万円、%)

		対前期		
		当期計画 (年間)	前期実績 (年間)	前期比
報告セグメント	インダストリアル機器部門			
	売上高	44,800	42,313	5.9
	セグメント利益	4,350	3,328	30.7
	セグメント利益率	9.7	7.9	(+1.8P)
	オフィス機器部門			
	売上高	22,600	22,566	0.1
	セグメント利益	4,700	5,075	△7.4
	セグメント利益率	20.8	22.5	(△1.7P)
	HCR機器部門			
	売上高	3,000	3,257	△7.9
	セグメント利益	△150	43	—
	セグメント利益率	△5.0	1.3	(△6.3P)
調整額		△2,250	△2,308	—
全社計				
売上高	70,400	68,138	3.3	
営業利益	6,650	6,139	8.3	
営業利益率	9.4	9.0	(+0.4P)	

当期より、純資産配当率の目標を0.5%引き上げ、3.0%としました。

<新 配当方針>

連結決算を基準に「配当性向40%下限、純資産配当率3.0%目標」



※2005年3月期までは単独ベースです

